

■ 概況

1/26～2/1のNYMEX・WTI先物市場は76.41～81.01ドルの範囲で推移した。

2月2日は、前日発表の米国原油在庫の積み増し報告で、先行き需給の緩和感から続落した。ただ、前日には米国金利の引き上げ幅圧縮決定もあり、底値は堅かった。3月限終値は前日比0.53ドル安の75.88ドル。

週末3日は、朝方発表の1月の米国非農業部門雇用統計で予想を大きく上回る雇用者増加があり、直後は米国経済の強さから値上がりしたものの、徐々に、インフレ対策の利上げ継続観測から値下がりに転じ、3日続落した。また、終値確定直前には、欧州連合(EU)大使級会合で、G7によるロシア産石油製品への上限価格設定(ガソリン・軽油:100ドル、重油:45ドル)への参加を決定、石油製品の需給ひっ迫懸念から、反発の動きもあった。3月限終値は前日比2.49ドル安の73.39ドル。

週明け6日は、中国の経済拡大期待からの買い、前週の値下がりの反動・安値拾いの買いも多く、4営業日ぶりに反発した。ただ、為替市場のドル高進行や米国の利上げ継続観測が上値を抑えた。3月限終値は前営業日比0.72ドル高の74.11ドル。

7日は、サウジアラムコの3月積み極東向け原油フォーミュラ価格の6か月ぶり調整金引き上げ決定を背景に、中国の需要回復期待の拡大、また、6日未明のトルコとシリアの地震に伴う石油パイプライン・出荷施設等の運転停止による供給懸念から、大幅続伸した。3月限終値は前営業日比3.03ドル高の77.14ドル。

2月8日は、トルコ・シリア地震に伴う供給懸念と中国の経済回復への期待感で、3日続伸した。この日、米国連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長は、積極的利上げ継続を発言したが、市場では、想定ほど強硬ではなかったとして、大きな影響はなかった。また、この日発表の先週末時点の米国原油在庫報告は、6週連続の積み増しで、上値を抑えた。3月限の終値は前日比1.33ドル高の78.47ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(3月渡し)は、1月26日～2月1日の間、80.70～84.30ドルの範囲で推移した。2月2日80.80ドル、3日79.90ドル、6日78.00ドル、7日80.00ドル、8日81.70ドルで推移した。

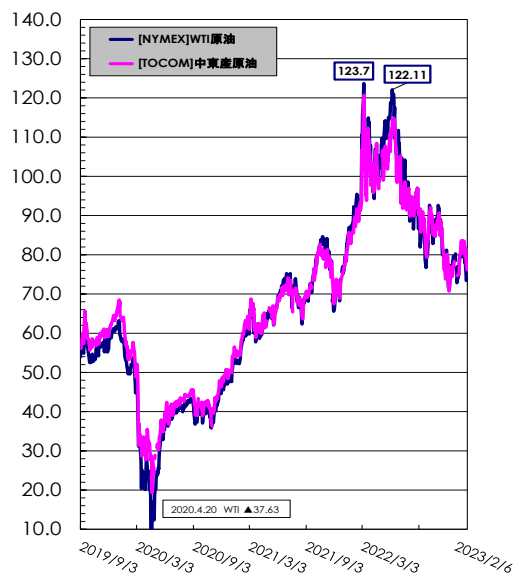
為替は、1月26日～2月1日の間、129.27～130.47円の範囲で推移した。2月2日128.50円、3日128.75円、6日132.40円、7日132.58円、8日130.93円で推移した。

財務省が2月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、1月中旬の原油輸入平均CIF価格は、73,342円で、前旬比3,060円安、ドル建て87.93ドルで前旬比3.33ドル安、為替レートは1ドル/132.62円だった。

そのような中で、2月6日時点の価格は、ガソリンが前週比0.5円の値下がり、軽油は同0.6円の値下がり、灯油は同4円の値下がり(18リットルベース)であった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油も2週ぶりの値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は167.6円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は15.5円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/29 ~ 2/4	3,124 ▲ 8	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.3 ▲ 0.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	2/4	10,609 ▲ 66	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	2/6	76.13 ▼ -4.99	▼ -13.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	2/6	74.11 ▼ -3.79	▼ -17.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月中旬	87.93 ▼ -3.33	▲ 8.24
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	73,342 ▼ -3,060	▲ 15,733
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	132.62 ▲ 0.51	▼ -17.69
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/6	133.40 ▼ -2.29	▼ -17.14

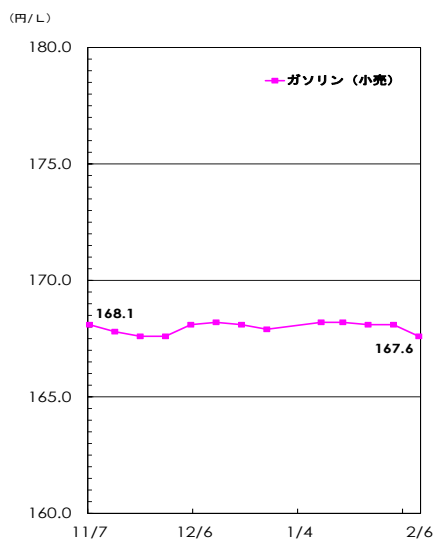
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/29 ~ 2/4	922 ▲ 88	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	798 ▼ -1	▼ -	
	輸出	"	177 ▲ 90	▼ -	
	在庫	2/4	1,701 ▼ -54	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/31 ~ 2/6	71.4 ▼ -0.8	▼ -6.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/31 ~ 2/6	75.0 ➡ 0.0	▼ -2.8
		(TOCOM/中部)	2/6	73.6 ➡ 0.0	▼ -5.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/6	167.6 ▼ -0.5	▼ -3.6	

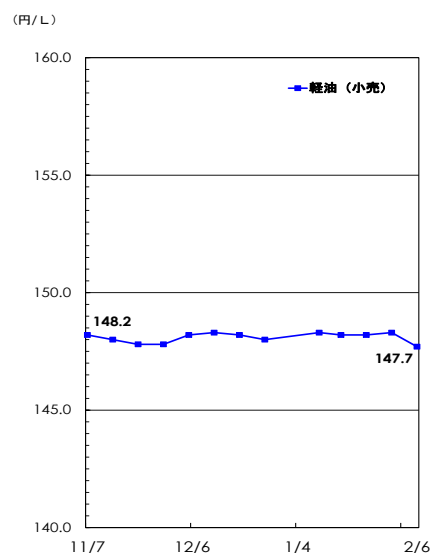
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

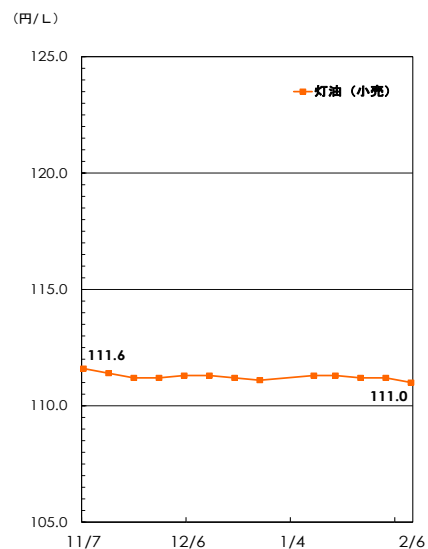
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/29 ~ 2/4	816 ▲ 130	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	682 ▲ 69	▲ -	
	輸出	"	292 ▲ 150	▲ -	
	在庫	2/4	1,307 ▼ -158	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/31 ~ 2/6	74.3 ▼ -1.5	▼ -4.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/31 ~ 2/6	76.7 ▼ -0.9	▼ -5.7
		(TOCOM/中部)	2/6	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/6	147.7 ▼ -0.6	▼ -3.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/29 ~ 2/4	346 ▼ -12	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	561 ▲ 70	▲ -	
	輸出	"	6 ▲ 6	▼ -	
	在庫	2/4	1,773 ▼ -222	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/31 ~ 2/6	74.9 ▼ -1.6	▼ -4.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/31 ~ 2/6	78.5 ➡ 0.0	▼ -0.1
		(TOCOM/中部)	2/6	78.0 ➡ 0.0	▼ -3.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/6	111.0 ▼ -0.2	▼ -0.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(2月2日~8日)のWTI石油先物市場は、2月2日の75.88ドルで始まり、米国の積極的利上げ観測等から、週末3日には73.39ドルと続落したが、週明けは、トルコ・シリア地震の影響、中国の需要回復期待等により、3日続伸し、8日の78.47ドルへと推移した。

2月8日発表の3日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国内週間在庫統計によれば、米国内原油在庫は前週比240万バレル増と市場予想(250万バレル増)とほぼ一致したものの、7週連続の積み増しとなった。

EIAによると、2月6日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.5セント値下りの1ガロン3.444ドル(121.2円/%)と

6週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比8.3セント値下りの1ガロン4.539ドル(159.8円/%)と3週ぶりの値下がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、2月3日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比10基減の599基と3週連続で減少した。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年1月29日~2月4日に休止したトッパー能力は10.5万バレル/日で、前週に対して3.0万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は312.4万klと、前週に比べ0.8万kl増加。前年に対しては11.3万klの減少。トッパー稼働率は84.3%と前週に対して0.2ポイントの増加、前年に対しては0.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/10.5%増、ジェット/7.4%増、灯油/3.3%減、軽油/18.9%増、A重油/18.8%増、C重油/11.8%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は29.2万kl(前週比15.0万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、ジェットが減少、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は79.8万kl(対前週0.1%減)と2週ぶりに減少した。ジェット8.0万kl(対前週1.5%減)、灯油56.1万kl(対前週14.4%増)、軽油

68.2万kl(対前週11.2%増)、A重油27.6万kl(対前週8.2%増)、C重油24.8万kl(対前週2.1%増)。

(単位:千kl)

	今週 (1/29 ~ 2/4)	前週 (1/22 ~ 1/28)	前週比	
ガソリン	798	799	▼ -1	(-0%)
ジェット燃料	80	81	▼ -1	(-1%)
灯油	561	491	▲ 70	(14%)
軽油	682	613	▲ 69	(11%)
A重油	276	255	▲ 21	(8%)
C重油	248	243	▲ 5	(2%)
合計	2,645	2,482	▲ 163	(7%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月4日時点の在庫はジェットが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはC重油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは170.1万kl、前週差5.4万kl減。前年に対しては4.2万kl多い。

灯油は177.3万kl、前週差22.2万kl減。前年に対しては17.4万kl多い。

軽油は130.7万kl、前週差15.8万kl減。前年に対しては2.9万kl多い。

A重油は69.2万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては2.4万kl多い。

C重油は166.1万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては4.9万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (2/4)	前週 (1/28)	前週比	
ガソリン	1,701	1,755	▼ -54	(-3%)
ジェット燃料	824	807	▲ 17	(2%)
灯油	1,773	1,995	▼ -222	(-11%)
軽油	1,307	1,465	▼ -158	(-11%)
A重油	692	709	▼ -17	(-2%)
C重油	1,661	1,682	▼ -21	(-1%)
合計	7,958	8,413	▼ -455	(-5.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月31日～2月6日のドル建て指標原油価格は値下がりし、為替レートは横ばいで、元売会社の円建て原油コストは、2.5円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額18.4円を加えたコスト上昇額15.9円に、今週も補助金15.5円が支給されることから、2/9～2/15の元売会社の実質的な卸価格は0.4円の値上

げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

1月31日～2月6日の製品スポット市況は、1月24日～1月30日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物の横ばいを除いて、他の取引・油種で値下がりした。

直近週(1/31～2/6)の陸上スポット価格平均値は、前週(1/24～1/30)比で、ガソリンは0.8円の値下がり、灯油も1.6円の値下がり、軽油も1.5円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(1/31～2/6)に、前週(1/24～1/30)比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油も1.1円の値下がり、軽油も1.5円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.9円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (1/31～2/6)	前週 (1/24～1/30)	前週比
	レギュラー	71.4	72.2
灯油	74.9	76.5	▼ -1.6
軽油	74.3	75.8	▼ -1.5

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (1/31～2/6)	前週 (1/24～1/30)	前週比
	レギュラー	75.0	75.0
灯油	78.5	78.5	→ 0.0
軽油	76.7	77.6	▼ -0.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/31～2/6実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.8	→ 0.0	▼ -0.4
灯油	▼ -1.6	→ 0.0	▼ -0.8
軽油	▼ -1.5	▼ -0.9	▼ -1.2
A重油	▼ -1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

2月6日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円値下がりの167.6円、軽油は0.6円値下がりの147.7円、灯油は18%ベースで4円値下がりの1,998円(1%ベースでは0.2円値下がりの111.0円)。ガソリンは2週ぶりに値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油も2週ぶりに値下がりであった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは6県、横ばいは4県、値下がり37都道府県だった。全国最安値は徳島県の160.4円、その次は宮城県160.6円であった。他方、最高値は長崎県の180.9円だった。

最も値上がりしたのは愛媛県・佐賀県・富山県・千葉県の4県(前週比0.3円高)、横ばいは熊本県等4県、最も値下がりしたのは島根県(同2.2円安)だった。

次回調査時(2/13)のガソリンの小売価格は、横ばいなし小幅な値動きが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (2/6)	前週 (1/30)	前週比	直近高値
レギュラー	167.6	168.1	▼ -0.5	08/8/4 185.1
灯油	111.0	111.2	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	147.7	148.3	▼ -0.6	08/8/4 167.4

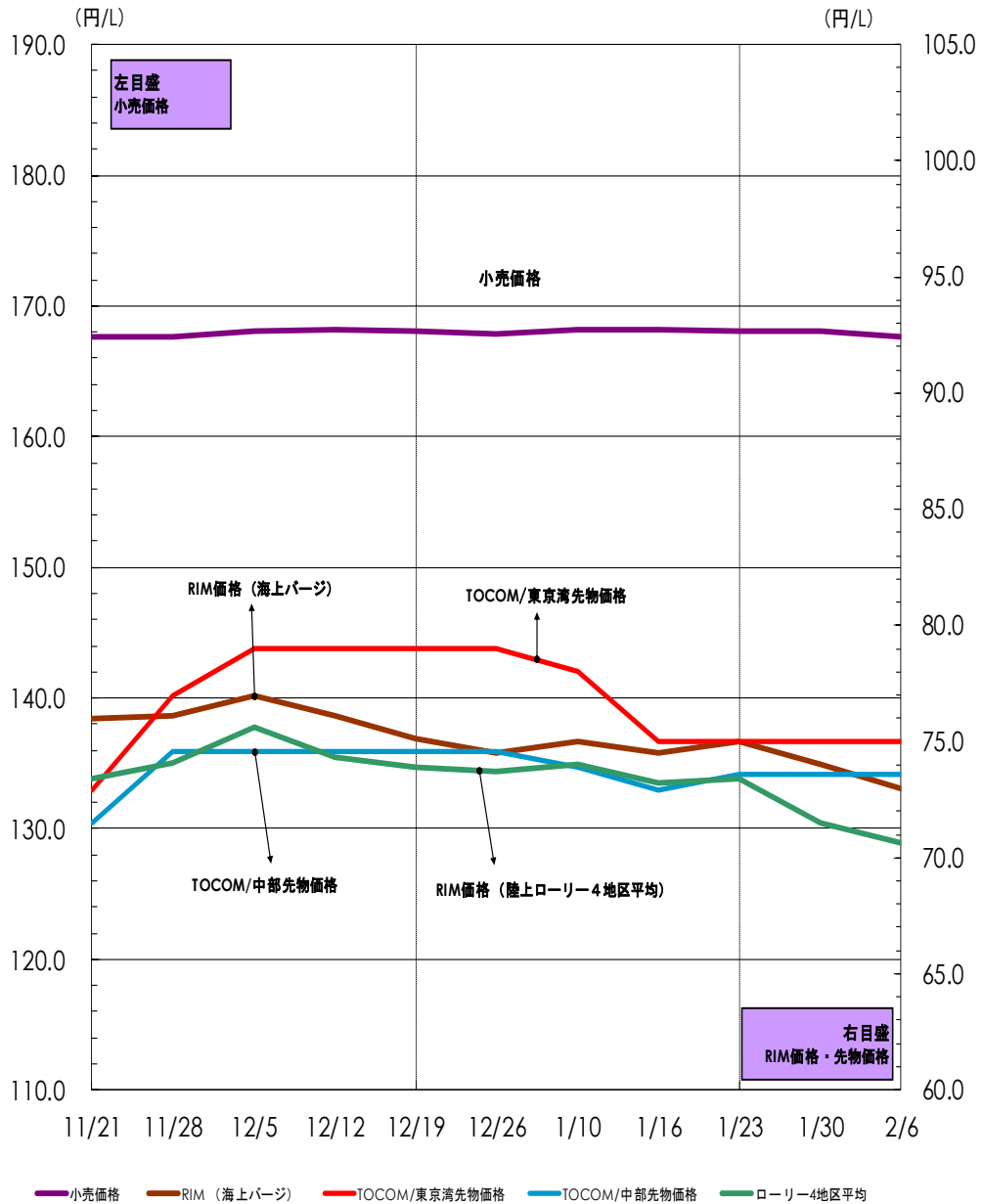
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/11/21 ~ 2023/2/6)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2022第44号)の公表は、2/17(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。